

計画策定の目標

1 計画の趣旨

離島振興法により離島振興対策実施地域として指定された愛知三島(日間賀島、篠島、佐久島)が、離島の地理的・自然的特性を生かし、創意工夫による地域の自立的発展の促進を目指すことにより、島民の生活の安定及び福祉の向上を図り、あわせて離島が担っている良質な水産物の安定的な供給と豊かな自然環境・生態系の保全等の役割を果たして行けるようにするため、今後の離島振興の基本的方向と施策のあり方を広域の見地から示し、離島振興施策を総合的かつ効果的に推進するために定めたものである。

2 計画の対象地域

本計画の対象地域は、知多郡南知多町及び幡豆郡一色町に属し、離島振興法において離島振興対策実施地域として指定された地域とする。

3 計画の期間

本計画の期間は、平成15年度から平成24年度までの10カ年とする。
ただし、必要に応じ、内容の見直しを行うものとする。

4 計画の目標

離島は、島しょ性故の自然的・社会的諸条件のために、本土に比べ所得や生活環境などの面において依然として格差が大きく、引き続き人口減少と少子・高齢化の進行がみられ、地域の活力低下が顕著となっている。このような状況に鑑み、島民が将来に向けて明るい展望を持ち、ゆとりと活力ある地域を構築するために産業・生活基盤等各種基盤の整備充実、地域固有の資源を活用した地域間交流、島民自らの創意工夫による地域づくりの推進など多様な手段の展開を進め、離島地域の自立的発展と離島が担っている役割を持続的に果たしていけるようにすることを本計画の目標とする。

離島の現況

1 概要

(1) 自然条件

愛知三島は、三河湾の湾口部寄りに位置し、本土からの距離は、日間賀島が1.8 kmで最も近く、篠島3.0 km、佐久島4.7 kmである。また、3島は近接し、日間賀島を中心に、南2 kmに篠島、北東3 kmに佐久島が位置する。

面積は、佐久島が1.81 km²で最も大きく、次いで篠島が0.93 km²となっており、日間賀島が0.77 km²で最も小さい。

地勢は標高の最も高いところで篠島49.1 m、日間賀島30.2 m、佐久島37.8 mであり、3島とも比較的起伏に富んだ丘陵地からなっている。

気候は、年平均気温が15 前後と温暖で、結氷、降霜は少なく、降雪もほとんど見られないが、冬季の季節風はかなり強く、年間降水量は、1,600 mm 前後である。

海岸線は、3島いずれも侵食により海岸崖が発達しており、風光明媚な三河湾の島しょ景観の中心として、3島とも昭和33年4月に三河湾国定公園に指定され、平成3年3月には三河湾地域リゾート整備構想の重点整備地区に指定されている。

(2) 土地利用

3島の土地利用の現況は、平成12年時点で、森林が82 haで全体の23.3%、宅地が52 haで14.8%、耕地が0.45 haで0.1%、原野が4 haで1.2%、その他が213 haで60.6%となっている。

耕地は、昭和55年時点で23 haあったものが平成12年時点では0.45 haまで減少している。これは、最大の耕地を有する佐久島で島民の高齢化等による耕作放棄地が増加したことによるものと思われる。

土地利用規制面では、3島とも都市計画区域外であるが、三河湾国定公園に指定され、埋立地など一部を除き第二種特別地域(自然公園法)に指定されており、自然環境や景観について適正な保全と利用が図られている。

(3) 人口

3島の人口は、平成12年国勢調査では4,605人で平成7年と比べると292人(6.0%)減少した。島別では、篠島2,040人で180人(8.1%)の減少、日間賀島2,221人で64人(2.8%)の減少、佐久島344人で48人(12.2%)の減少となっている。なお、佐久島では、人口が自然減に転じている。

老年人口(65歳以上)の割合は、篠島が22.6%、日間賀島が22.8%である

のに対し、佐久島は48.5%と極めて高くなっており、県全体の14.5%と比べ著しく高い状況となっている。(平成12年国勢調査)

とりわけ、篠島と日間賀島は都会並の過密状態で、人口密度が篠島2,194人/km²、日間賀島2,884人/km²となっている。

2 交通体系の現況

(1) 本土との交通

本土と離島を結ぶ定期航路は、篠島、日間賀島へは師崎港(南知多町)と河和港(美浜町)からの2航路が民営により開設されている。また佐久島へは一色町営渡船が一色漁港から運航されている。なお、佐久島と篠島、日間賀島の間には航路は開設されていない。

篠島、日間賀島への玄関口である師崎港には民営バスが乗り入れているが、島民、観光客とも主要なアクセスが自家用車であり、駐車場の狭あい化対策が求められている。また、もう一つの玄関口である美浜町の河和港は、すぐ近くに民営鉄道の駅があるため、利便性は良く、両島から名古屋都心まで約1時間半で行けることから島民の生活圏は名古屋市まで及んでいる。

一方、佐久島は、玄関口である一色漁港に平成13年4月から民営バスの停留所を新設し、民営鉄道への利便性向上を図ったが、それでも名古屋都心へは2時間かかることから、島民の生活圏は西尾市のほか近隣市町に限られている。

ア 篠島、日間賀島航路

篠島、日間賀島へは、民間航路が開設されており、師崎港からは高速船が23~26便/日、フェリーが6~7便/日、河和港からは高速船が11便/日、運航している。航行距離は、師崎~篠島間5.5km、篠島~日間賀島間3.0km、師崎~日間賀島間4.0kmで高速船はそれぞれの区間を8分、フェリーは20分で運航している。河和港からの高速船は、河和~日間賀島間13.5kmを20分、河和~篠島間を日間賀島経由で16.5kmを30分で運航している。

これらの航路は、島民にとって欠くことのできない生活航路であるため、県単独の離島航路交通費補助金により航路運賃の助成を行っている。

また、河和港から日間賀島、篠島を経由して渥美半島伊良湖港へ民間の広域観光航路が開設されており、フェリーが5~6便/日、運航している。

イ 佐久島航路

佐久島へは、一色漁港から町営航路が開設されており、高速船が6~10便/日、一色漁港~佐久島西間10.8kmを20~23分で運航している。

当航路は、離島航路整備法に基づく離島航路に指定され、国から運営費の助成が行われている。

(2) 島内交通

ア 道路の整備

3島の島内道路は全て町道である。規格改良率は平成13年4月1日現在(県平均56.5%)22.6%と低く、狭い島の事情から規格改良がなかなか進まない状況にある。また、舗装率は76.0%で県平均(85.1%)を下回っている。

イ 自動車の普及

3島における平成14年現在の登録車両は4,120台であり、乗用車1,031台、軽自動車1,168台、原動機付自転車1,751台、トラック64台、バス30台、その他76台となっている。道路が狭いため、原動機付自転車と軽自動車は島内の交通手段の主体となっており、乗用車は、師崎港付近に置いてもっぱら本土側の交通手段に用いている。

3 情報・通信体系の現況

各島とも高速情報通信基盤は未整備であり、インターネットは総合デジタル通信網(ISDN)の利用によって、観光情報や旅館等の宿泊案内のほか、佐久島では診療所とへき地医療支援病院を結び専門医による画像診断を行なっている。

また、篠島、日間賀島では行政情報について、平成14年度にインターネットを利用した行政情報システムを整備し、島の公民館や離島開発総合センター、保育所に住民用端末を設置し、行政情報の収集、公共施設の利用や行政相談などに活用し住民サービスを図っている。なお、各世帯には、漁業協同組合によりオフトーク通信が整備され、島民の連絡用に利用されている。

4 農・水産業の現況

(1) 水産業

島の基幹産業である水産業は、伊勢湾、三河湾及び渥美外海を主漁場とした小型機船底びき網、機船船びき網、刺し網、一本釣り等の漁船漁業と、島沿岸のノリ、ワカメの浅海養殖の沿岸漁業が中心である。

3島の個人経営体数は、平成10年漁業センサスでは592戸で平成5年と比べると86戸減少している。専業・兼業別にみると、専業漁家は197戸で平成5年と比べ108戸・35.4%と大幅に減少したのに対し、第1種及び第2種兼業漁家は、395戸で22戸・5.9%とわずかではあるが増加している。専業漁家を島別に見る

と、佐久島は23戸(61戸・72.6%の減少)、日間賀島は108戸(54戸・33.3%の減少)、篠島は66戸(7戸・11.9%の増)となっており、佐久島及び日間賀島において専業漁家が大きく減少している。

漁業形態は、篠島においては、シラス、イカナゴ等を対象とした沿岸域での機船船びき網が主体の漁船漁業とノリ等の養殖が行われており、水揚げの100%近くが島内で加工等されている。日間賀島においては、沿岸地域でのシャコ、カレイ等を対象とした小型機船底びき網や、シラス、イカナゴ等を対象とした機船底びき網等の漁船漁業及びノリ等の養殖が行われており、島内消費や加工原魚を除き、80%近くが本土側片名の水産物地方卸売市場へ水揚げされている。

漁獲量は、平成13年には3島で約9,297トン、約59億円の水揚げがあった。

魚種別では、魚類が最も多く70.6%を占め、以下貝類13.6%、海藻類10.2%、水産動物5.6%となっている。

島別では、篠島6,514トン・27億94百万円、日間賀島2,514トン・28億35百万円で、この2島で水揚げの95%以上を占め、経営規模の小さな佐久島は269トン・2億55百万円と一桁少ない水揚げに留まっている。

漁船は、小型動力船が主体で、3島の登録漁船数(平成13年末現在)1,209隻中約77%が5トン未満である。

漁港区分は、篠島漁港が第2種県管理漁港、日間賀漁港及び佐久島漁港が第2種町管理漁港である。

また、地先漁場造成のため、築いそや魚礁の設置が行われているが、主漁場である三河湾は閉鎖性水域であるため、赤潮や貧酸素水塊が発生しやすくなっており、環境浄化が重要な課題となっている。

漁業後継者問題は、3島共通の課題であるが、日間賀島と篠島では青年漁業者が中心となってトラフグ、アワビ、ミルクイ、クルマエビ等の、また、佐久島ではクロダイ、クルマエビ、ナマコ等の栽培漁業に意欲的に取り組んでおりその活動が期待される。

(2) 農業

日間賀島においては、昭和40年代後半に約15haの農地造成が行われ、順次オリーブ、ふき、梅等の栽培が試みられたが、害虫の発生、潮風、土質、浅い耕土、農業用水の整備困難などにより、いずれの作目も定着に至らず、営農意欲の衰退と従事者の高齢化などから、現在では農家は一軒もなく、畑の一部が家庭菜園としてわずかに耕作されている程度で、多くは耕作放棄地となっている。

篠島においても同様で、畑が8haほどあるものの農家は一軒もなく、畑の一部

は家庭菜園として使われているが多くは耕作放棄地となっている。

佐久島においては、昭和30年代に樹園地が造成され温州ミカンの栽培によって、農家所得を支えてきたが、高齢化と後継者不足により、今ではそのほとんどが栽培放棄地となっている。現在、0.45haの畑で3戸の農家が豆類、花卉類などの路地栽培を営んでいる程度で、経営規模は極めて小さい。

5 商工業等の産業の現況

製造業は、水産加工業が主で、シラス、イカナゴの塩干業等が篠島で13事業所、日間賀島で5事業所営まれているが、小規模な事業所が多く、原材料の漁獲量により経営が左右されやすく、事業所、就業者数とも減少している。また、篠島、日間賀島では、船舶製造業が合わせて5事業所ある。

商業は、篠島及び日間賀島では土産物や日用雑貨品を売る小売業に256人就業しているが、佐久島では、日用雑貨品の販売にとどまっており、就業者も18人と少ない。(平成12年国勢調査)

6 観光の現況

3島は、三河湾国定公園の島しょ景観の中心にあつて、自然環境に恵まれており、平成13年度には、自然や海の幸を楽しむ人、海水浴客、釣り客など約64万人の観光客が訪れ、観光は水産業と並ぶ主力産業となっている。

島別の観光客数は、日間賀島の31万人が最も多く、以下、篠島28万4千人、佐久島4万4千人で、佐久島と他の2島では観光客数に大きな差がみられる。

観光客は、夏季に集中しがちで季節的変動が大きなことから、篠島、日間賀島では、通年型観光への転換の取り組みとして、島内環境整備と観光資源・施設の充実を図り、春のお遍路さん、春から秋にかけて海浜レジャー・スポーツ、夏の海水浴や体験漁業、冬場のフグ料理、通年の釣りや離島生活体験など、自然の恵みを生かした四季型の観光地を目指した努力が続けられている。また、自然と漁業を一体とした観光施策として、漁業を体験学習プログラムに組み込んだ「体験型観光」を目指し、「自然体験漁業」による集客にも力を入れている。

佐久島では、平成8年度にスタートした活性化プロジェクト「弁天海港＝生活と芸術」では、現代アートを中心としたイベント「アートフェスティバル」を開催し、芸術の島として多くの人々との交流の形成を図っている。更に平成13年度からは、アーティストと島民がコラボレーション(協働)により取り組むプロジェクト「三河・佐久島アートプラン21」を展開し、“祭りとアートに出会う島”をテーマに様々なイ

イベントを開催しており、一般的な観光と一線を画した文化的な島づくりを目指した努力が続けられている。こうした活動の核となっている組織が島民で構成する「島を美しくつくる会」であり、里山や黒壁の家並みなど原風景の修復や名物料理・特産品の開発などにも積極的に取り組んでいる。

7 生活環境の現況

電気については、南知多町片名から6 k Vの海底送電ケーブルで日間賀島を経由し、篠島、佐久島に送電されている。

水道については、南知多町師崎から海底送水管が篠島へ口径200 mm 1本、日間賀島へ口径150 mm 2本、佐久島へは日間賀島経由で口径150 mm が1本敷設送水されており、水道普及率は100%となっている。運営は、昭和47年より愛知三島水道企業団で行ってきたが、平成13年度から南知多町水道事業に一元化され、経営の合理化が図られている。

可燃ごみについては、3島とも島内に設置されたバッチ式焼却炉等で焼却処理してきたが、ダイオキシン類対策特別措置法の定める環境基準をクリアできないことから、平成14年10月以降本土側へ運搬し処理している。

資源ごみについては、容器リサイクル法の施行に伴い、ビン、カン、新聞紙等について、篠島・日間賀島では月2回、佐久島では月1回収集し、本土へ搬出して資源化処理を行っている。

不燃性のごみ処理については、篠島には平成4年度に8,316m³の、日間賀島には平成5年度に26,625m³の、佐久島には平成元年度に2,660m³の埋立処分地が整備されているが、篠島においては残余容量が少なくなっている。

粗大ごみの処理については、篠島と日間賀島では毎月1回知多南部衛生組合が、佐久島では年2回町が収集して、本土へ搬出し適正な処理を行っている。

また、3島とも観光地としての良好な環境づくりを進めるため、コミュニティー活動等による島内美化運動が実施されている。

し尿処理については、3島とも早くから単独浄化槽が普及しており、平成13年4月1日現在の水洗化率は、篠島74.1%、日間賀島91.8%、佐久島83.2%となっている。篠島及び日間賀島では町の委託を受けた業者が、佐久島では本土の処理業者が小型汲取車を搬入し処理に当たっている。

また、篠島と日間賀島では、旅館・民宿等からの生活排水が海域に流れ込んでいることから、日間賀島では、平成8年度より漁業集落環境整備事業に着手し、生活環境の改善に努めている。篠島では、地域の実情に応じ、集合処理施設や個別処理である

合併処理浄化槽の設置促進を図り、生活排水の対策を進めている。

8 保健医療の現況

篠島においては、区所有の診療所で、知多厚生病院附属篠島診療所が開設されており、週5回の診療が行われている。また、歯科も民間医師により週2回開業されている。

日間賀島においては、平成12年に新築された区所有の診療所で島に常駐の民間医師が診療に当たっている。また、歯科も島に常住の民間医師が開業している。

佐久島においては、町営診療所が、国及び県の助成を受けて運営されており、県から派遣された自治医科大学の卒業医が常駐している。また平成11年8月からへき地医療支援システムを導入し、へき地医療拠点病院である県立愛知病院から専門医による画像診断(ISDN 利用)などの技術支援を含めた診療上の助言・指導を受けることが可能となっている。なお、歯科については設置されておらず今後の課題となっている。

島民の健康保持・増進を図るために、県保健所は各町の保健活動が円滑に推進できるよう支援を行っている。

急患への対応について、3島とも救急患者の輸送に海上タクシーや漁船を使用しており、篠島、日間賀島では知多南部消防組合が、佐久島では町により、搬送費に対して助成が行われ、患者・家族の負担軽減が図られている。

また、重症の救急患者に対しては、ドクターヘリ事業が平成13年度から愛知医科大学付属病院により実施されており、県内17病院への搬送が可能となっている。

9 高齢者等の福祉の現況

3島の老年人口(65歳以上)の割合は、篠島22.6%、日間賀島22.8%に対し、佐久島は48.5%と著しく高い。(平成12年国勢調査)

また、老年人口のうちひとり暮らし老人の割合も、篠島15.6%、日間賀島6.3%に対し、佐久島は24.0%と高くなっている。

高齢者福祉対策として、篠島及び日間賀島では、健康で自立した生活に向けた支援として、生きがい活動支援センターを整備して平成13年1月から生きがい対応型デイサービス事業が開始され、入浴や食事、健康チェック、機能回復訓練などの実施により介護予防に努めている。また、老人憩いの家が篠島に1か所、日間賀島に2か所整備され、健康増進、レクリエーションの場として利用されている。

佐久島では、健康で自立した生活に向けた支援として、ホームヘルパーの派遣や食に関わるサービスをはじめ、平成12年度からは、開発総合センターを改修し、送迎による生きがいデイサービスの実施により介護予防に努めている。

また、介護保険制度の運用により島へ派遣されるホームヘルパーへの交通費補助が各町により行われている。

児童福祉施設として、日間賀島と佐久島には町立保育所が、篠島には私立保育所がそれぞれ1か所ずつ設置されているが日間賀島の保育所は老朽化が進んでいる。

なお、佐久島では、平成12年度から入園児がいないため休所となっている。

10 教育及び文化の現況

(1) 学校教育

小・中学校は、3島に1校ずつ設置されており、平成14年5月1日現在3島の小学生は259人、中学生は147人となっている。島別に見ると、篠島は、小学生120人、中学生56人、日間賀島は、小学生130人、中学生83人、佐久島は、小学生9人、中学生8人となっている。

高等学校は、篠島と日間賀島には、県立内海高等学校の分校が設置されてきたが、生徒の進路希望の多様化に伴い入学者が激減したことから、日間賀島は平成12年度末をもって閉校となり、篠島校舎についても、平成14年度より募集を停止しており平成15年度末をもって閉校されることになっている。

各島とも本土側の高校へ渡船による通学が主体となってきており、通学者に配慮した渡船の運航が強く望まれている。

(2) 社会教育

社会教育施設として、日間賀島には公民館が、篠島と佐久島には離島開発総合センターが設置されており、島民の地域活動や文化活動に活発に利用されている。

社会体育施設としては、篠島及び日間賀島では学校教育施設が島民に開放利用されており、佐久島ではゲートボール場が高齢者に活発に利用されている。

篠島、日間賀島では、平成13年から「南知多町生涯学習基本構想・やすらぎときらめきのまちづくり」に基づき、「いつでも、どこでも、だれでも」をキーワードに、住民主導の生涯学習がはじまっており、IT講習など多くのメニューのもとで、学習活動が行われている。

佐久島では、平成10年に整備された文化交流施設「弁天サロン」において、「島を美しくする会」が中心となり、島民展の開催やアートプロジェクトを通して島民が作家と交流するワークショップなどが実施されている。

(3) 文化の振興

歴史文化的所産としては、佐久島の八剣神社など県指定の文化財や篠島の帝井等の旧跡を始め各島には多くの貝塚、古墳、化石等が残されているが、これら出土品

等の収集・保存体制としては、平成元年に日間賀島に資料館が設置された以外は、本土側施設や島内の公共施設に分割して収集・保存されているのが現状である。

また、歴史的伝統である「篠島のおんべ鯛の調製とその奉納」(P13参照)「日間賀島の蛸祭り」、「佐久島の八日講祭り」など多彩な歴史文化が古来より伝承されている。

佐久島では、「弁天サロン」において、アートイベントやアーティスト展覧会を開催したり、島民自らの企画による島の歴史や伝統の紹介が年間を通して行われている。

11 他の地域との交流の現況

近年、都市住民の間には、単に観光客としてだけではなく、地域住民との交流や漁業体験、子どもの情操や感性のかん養の場として、地域の人々との交流を求める人が増加している。

篠島、日間賀島では、恵まれた自然と漁業を一体とした観光振興施策として、地引き網漁、流し網漁、干物作り体験等の自然体験漁業や、浜清掃で環境学習を行うなど豊富な体験学習メニューにより都市住民等との交流を積極的に展開している。

佐久島では、文化交流施設「弁天サロン」を交流の場として、「島を美しくつくる会」が中心となり、芸術活動を主体としたフォーラムやフェスティバルの開催、また、島を訪れる人々に貝染やそば打ちなどの体験を通して、都市住民との交流を積極的に展開している。

12 消防・防災及び国土保全の現況

(1) 消防

3島では、人家が密集し、道路も著しく狭いため、火災は大惨事に結びつく恐れがあることから、火災発生時に速やかな初期消火ができるように消防団員の指導の下に毎年消火訓練を実施し、島民の防火意識の徹底に努めるとともに、消防体制、消防施設の整備が推進されている。

消防体制としては、佐久島に40人、篠島、日間賀島にそれぞれ66人の消防団員が配置されており、また、3島間における消防協力体制が整備されている。

3島の消防施設としては、小型動力消防ポンプ16台、小型動力ポンプ積載車11台、消火栓27基、防火水槽28基が整備されている。

(2) 海岸保全

3島の海岸線は、篠島8.2km、日間賀島6.6km、佐久島11.6kmで、合計26.4

kmに及んでおり、内20.4kmが海岸保全地域に指定されている。

日間賀島及び佐久島の海岸は、水成岩により形成されており、また篠島は領家帯花崗岩から成るため、波浪による侵食が著しく、海岸保全は極めて重要であることから、海岸保全施設整備が継続して実施されている。

一方で自然景観の保護を訴える声も多いことから、自然との調和に配慮した海岸保全施設整備が求められている。

(3) 治山・がけ崩れ対策

森林面積は、篠島23ha、日間賀島3ha、佐久島56haで、3島合わせて82haとなっている。

篠島は、比較的起伏に富んでいて、山崩れの恐れがある所については治山事業が実施されてきており、現在は急傾斜地崩壊対策事業が実施されている。

日間賀島についても、島の南側の急傾斜地において急傾斜地崩壊対策事業が実施されている。

佐久島では、過去、生活環境保全林整備事業により森林の改良、散策道の設置など保健休養の場づくりを行ってきており、現在は除伐などの森林整備を小規模治山事業により実施している。

13 島民による島づくりの取り組み

(1) 日間賀島

日間賀島は、年間31万人の観光客が訪れる愛知三島の中で最も活気の溢れた漁業と観光の島である。日間賀島の漁業は、鮮魚が中心であり、その取引は、島内で仲買人の入札で行われていたが、昭和49年に日間賀島漁協と片名漁協が共同出資して本土側片名に水産物地方卸売市場を建設したことで、流通の合理化が図られ鮮度の高い魚介類が早く消費地に届くようになり、「日間賀島のおいしい魚」として認められ販路が拡大した。片名市場への水揚げの90%は、日間賀島の魚で占められている。

また、稚魚の放流や魚礁設置などによって漁獲量の増えたフグを観光協会、観光事業者など関係者が協力をして島の新しい名物・特産として、平成9年に「フグづくしプラン」を考案するとともに、島内の旅館・民宿の8割がフグ調理師免許を取得し、値打ちなフグ料理を提供することにより、これまで冬場に少なかった観光客の獲得に大きな成果を収めている。この「フグづくしプラン」の成功を機に、各種のグルメプラン（「タコ&エビ・シャコ・アナゴ満足プラン」「篠島・日間賀島グルメプラン」「篠島・日間賀島ぴちぴちプラン」）の考案へと進展し、集客に効果を上

げており、これからも魅力あるグルメプランの開発への取り組みが期待される。

平成11年からは島の産業である漁業を観光客や小・中学生に体験・学習してもらう「自然体験漁業」(地びき網漁、底びき網漁、流し網漁、タコのつかみ取り、干物づくり、海釣りを習う、イカダ作り&遊び、タコカレー作り、浜の清掃など)を観光・交流振興策として観光協会、漁業者、島民が中心となって取り組んでおり、集客・交流に大きな成果を上げるとともに観光客等から好評を得ている。こうした取り組みが島のファンを育て、交流からやがては定住へとつながって行くことが期待される。

日間賀島は、島民の環境意識が高く、美化運動への積極的な取り組みや愛知3島の中では先進的に「漁業集落環境整備事業」に着手するなど「環境にやさしい島づくり」を目指している。

漁業では、若手漁師約30人が、HIP(日間賀アイランドプロジェクト)グループを結成し、新しい時代の漁業を研究するほか、漁の空き時間を活用して「自然体験漁業」の地びき網や釣りのインストラクターを務めるなど島づくりの一翼を担っており、これからの島づくりにおける中心的な活躍が期待される。

特産品の開発としては、観光協会、漁協・のり部会が共同して「島のり会」を設立し、「日間賀のり」の販路拡大に取り組んできたことにより、観光客や一般消費者から大きな人気を博し、「日間賀のり」としてブランド化に成功し、現在では年間3億円の売り上げがある。「島のり会」は、島の振興を図る目的も持って設立していることから、収益の一部を街路灯の設置や島の祭礼等に対し寄付を行うなど島の振興に寄与している。

このように日間賀島では、新しいものに挑戦する気風を持ち、創造性、変革・開発志向が旺盛であり、漁業者、旅館・民宿、観光協会、交通事業者等が共同して漁業と観光が手を取って共に発展していこうとする地域の創意工夫による島づくりの芽が芽生え、取り組みが生まれており、地域の独自性として高く評価される。

今後は、さらに、その活動を発展させ、より多くの島民が島作りに参加する組織に仕立て、島の資源を最大限活用して、漁業と観光の島として振興を図っていくことが望まれる。

(2) 篠島

篠島は、年間約29万人の観光客が訪れる活気ある漁業と観光の島である。日間賀島と同様、漁業者、観光協会、観光事業者などが協力して、「フグ料理」「篠島・日間賀島グルメプラン」「篠島・日間賀島ぴちぴちプラン」などの観光商品を考案し、日間賀島との協調のもとに観光振興が図られている。

篠島の民宿組合のグループでは、平成3年から主に中学生の「海の体験学習」を受け入れており、毎年5月から6月にかけて県内を始め静岡県、岐阜県などから大勢の中学生が離島体験にやってくる。体験学修の内容は、「船釣り漁師体験」「地びき網」「魚のつかみどり」「干物づくり」「浜の清掃」などを、また宿泊先の民宿では、「民宿の人の話を聞く」「食事の準備と後片付けの手伝い」「草取りや掃除など家事の手伝い」など家族的な雰囲気を生かして交流が図られている。最初はびっくりしていた島の人たちも島ぐるみで迎え入れるようになり、子どもたちとの交流も定着し、子どもたちも島の美しい自然や漁業、島の暮らしを島民との触れあいを通じて体で感じ取った島の良さに、社会人となってからも島の想いで癒しを求めて幾度となく島を訪れるリピーターとなっている人も多い。また、民宿組合では、漁協の協力を得て、宿泊客に対して4月から11月の毎日曜日の午前中、「地びき網」「魚のつかみどり」の無料体験サービスを行っており集客に効果を上げている。

篠島には、中世以来の歴史的伝統を持つ島のステータスとも言える伊勢神宮の三大祭に供えられる「おんべ鯛の調製とその奉納」の行事が古来より続いているが、これまで簡素化されていたやり方を平成10年に漁業者が中心となり、70年ぶりに唐櫃に入れ漁船で運ぶ古式に復活させている。このことは、何百年も続いてきた「おんべ鯛の島」としての誇りが島の人々の意識の中に生き続けていることと、島の貴重な観光資源として活かして行きたいとするもので島づくりの取り組みの一つといえる。

また、観光振興の取り組みとして、平成8年に漁協青年部が中心となって、「海の釣り堀・篠島つり天国」を開設し、タイやハマチ、アジなど大・小ささまざまな魚が放流されており、初心者や子ども、女性にも楽しめることから家族づれなどに好評で島の人気スポットの一つとなっておりリピーターも増えている。

このように徐々にではあるが、若手漁業者を中心に島づくりの取り組みが生まれてきていることから、今後は、その人達を中心になって、より多くの島民の参加を得て、島づくりについて考える組織を立ち上げることにより、「おんべ鯛の島」として誇り高き島づくりを島民が一体となって展開していくことが望まれる。

(3) 佐久島

佐久島は、人口減少と高齢化の著しい島であり、昭和22年に1,634人あった人口も、平成14年4月1日現在337人まで減少し、高齢者比率は56.4%となっている。

ひっそりとした自然、素朴な人情などが手付かずの状態に残っている空間的資源や生活資源、風習など日本人の心に触れられる原風景があり、都会の喧騒の中で個人

のゆとりを失いかけている人たちには、暮らしのバランスを取り戻すことができる島、時代の要請に応える癒しの場としての島といったイメージの島であり、篠島・日間賀島とは全く異なった趣を持つ島といえる。

佐久島は、このままでは島は無くなるという島民の危機意識から、「佐久島コミュニティアイランド構想等促進協議会」の終焉と同時に、平成8年に島の活性化推進を図る組織として「島を美しくつくる会」が島の各分野の担い手16名によって設立された。「コミュニティ・アイランド推進事業」で整備した文化交流施設「佐久島弁天サロン」を交流活動の拠点とし、芸術・文化活動を中心に創意ある活用を企画し、交流の中から生ずる相互触発によって、島の人々の誇りと自信を回復し、島の美しい自然や伝統・歴史、生活などを活用して、島民自らの創意工夫による島づくりが進められている。現在は、4つの分科会（ひと里分科会、美食分科会、漁師分科会、いにしえ分科会）を置き、各分科会ごとに世話人（島民）が中心となって、計画を立案し、多くの島民の参加を得て活動を展開しており、これからの島づくりの中心的役割を担うことで大いに期待されている。

これまでの活動から、成果も徐々に現れてきており、名物料理では、「タコしゃぶ（温・冷）」「磯力キ茶漬け」「タデ汁」が民宿等の特別料理として提供されている。また、漁業者の開発による「串アサリの一晩干し」「コノワタ風味サヨリの干物」が民宿の料理に活用されるようになり、現在土産品としての商品化に取り組んでいる。

特産品の開発では、島で取れる貝を使った「貝紫染め」の体験教室が好評で、全国各地から「貝紫染め」を目当てに観光客が訪れるようになり島の新しい魅力になっている。また、「貝紫染め」がきっかけで、全国の染織グループとの交流が生まれ、その交流から、機織りや草木染めにも取り組んでおり、今後は、民芸品などの開発に期待が高まっている。

景観形成を目指す活動では、荒れた畑を起こして、島民を挙げて水仙や蕎麦、綿などを育て美しいお花畑に修復する活動が定着し、島で育てた水仙の球根をお土産品として販売したり、フォトコンテストなどを企画・実施している。

一方、佐久島の景観の特徴である黒壁の家並みを修復し、定住対策に活用する検討もされている。

島の伝統、歴史を知ってもらうため、弁天サロンにおいて、島民の手作りで民家の雰囲気演出をして民俗色の濃い展示を行っている。また、ウォークラリーを実施して、参加者に島の伝統や歴史を探訪してもらっている。こうした活動の過程をインターネット・ホームページ上で紹介し、情報発信を行っており、遠方から島に訪れる人も増えている。

平成15年からは、名古屋芸術大学学生の卒業制作発表の場として佐久島が使われるなど、アートのある島として広く世間からも認められてきている。

これらの活動は正に島民自らの創意と工夫による地域づくりであり、まだ経験は浅いが、こうした取り組みにより今後定住者が増え、島の自立促進へと発展するためには、活動の継続と島民の熱意の保持が大切であり、併せて後継者の育成にも努めていく必要がある。

具体的施策

1 主な振興方針

愛知三島は、内海本土近接型の離島で、交通の便も比較的良いことから、近年では年間 70 万人前後の観光客が訪れる漁業と観光の島であり、将来に向かって漁業と観光が島の産業の基幹を成すことに変わりはなく、その振興如何が 3 島の自立的発展に直接結びつくこととなる。

篠島、日間賀島では、これまで観光協会、観光事業者、漁業者、住民等地域が協力して取組んできた創意工夫による観光商品等の開発、様々なイベントや漁業体験などが集客・交流に成果を現してきている。

佐久島では、島づくりを実践する「島を美しくつくる会」が、宝になる島の資源を探し出し、人を引き付ける「場」、交流の「場」づくりに取り組んでおり、その活躍が多くの人に認められるところとなっている。

漁業においては、漁場の造成を行うとともに、トラフグ、イカナゴの資源管理型漁業やアワビ、ナマコの種苗放流等の栽培漁業により成果を上げている。

そうしたこれまでの活動によって育まれてきた「自分たちの発意で計画を作り、自分たちで実践して行く」という若芽をしっかりと根付かせ更に大きく育てるとともに活動における後継者を育成していく必要がある。

今後は、各島とも更に地域にふさわしい多くのプログラム作りが必要である。島の豊かな自然、歴史・文化、生活など豊富な資源を生かし、地域住民に積極的に参加してもらい、地域の視点で産業、観光・レクリエーションの振興を図るとともに、地域の生活・産業のあり方を環境負荷のより少ない方向へと見直し、持続的発展可能な漁業と観光の島づくりを目指す。もって、島民の生活の安定及び福祉の向上を図るため必要な以下の施策を実施するものとする。

2 施策の内容

(1) 交通体系の整備

3 島とも本土への通院、買物、交際、通学、通勤など日常の渡航頻度が高く、国土の連続性の確保の観点から、島民の生活時間に対応した渡船の運航体系と、高速性、低廉性、安全性の確保を図る。

また、観光の振興及び交流の促進を図るため、本土側の公共交通機関と渡船との乗換え利便性の確保並びに観光客等の駐車場の確保を図るとともに、快適な環境を備えた乗船待合所の整備及び乗船場や歩道のバリアフリー化に努める。

篠島、日間賀島においては、本土側高等学校への通学に適した運行ダイヤの編成と輸送量の確保に努めるとともに、島内の軽自動車等の増加に伴い島民や観光客の安全を確保するため、島内道路の改良・整備や交通安全施設の整備を推進する。

佐久島においては、町営渡船事業を拡充し安全な運行を確保するため船舶の更新を図るとともに、鉄道・バスとの接続を良くした島民・観光客の利用しやすい運行ダイヤの編成や便数の確保に努める。

(2) 情報・通信体系の整備

光ファイバーの設置やインターネットの普及等わが国における情報化は急速に進展している。こうした状況の中にあつて、離島地域は、採算性等の問題から民間による提供が困難な地域であることから、情報通信基盤の整備が遅れ、更なる情報格差が生ずることも懸念される。

情報化の進展は、離島地域の有する地理的制約を克服する上で極めて有効な手段であり、産業振興、雇用の創出、行政、医療、福祉、教育等のサービスの提供が円滑に行われるように、高度情報通信基盤の整備を検討するとともに、併せてコンテンツの整備や地域の情報を効果的に発信するためソフト面の整備についても検討することが重要である。

高度情報通信ネットワークの整備は、新しい時代の島作りと住民サービスの向上に極めて有効な手段であることから、国の離島地域を対象とした情報化支援措置を活用して、離島の情報格差の是正に努めるとともに、学校教育や生涯学習の機会を捉えて情報機器の操作能力の向上を図る。

(3) 農・水産業の振興

3島とも水産業が主体を成し、農業はごくわずかである。

農業・水産業は、国民の暮らしを支える重要な産業であり、食料の安定的な供給とともに余暇活動の場の提供など、様々な役割が期待されている。

農業者・水産業者が将来に向けて明るい展望を持ちながら、ゆとりと活力ある農業・水産業への取り組みができるよう「あいち農林水産業ビジョン 2010」(平成 11 年 1 月策定)に基づき、農業・水産業の振興を図るとともに、「いいともあいち運動」の推進により、消費者と生産者の相互理解と地域生産物の一層の県内消費の拡大を図る。これらの取り組みを通じて、生産者は仕事に夢と希望を持ち、消費者は鮮度・おいしさ・安全な食べ物や離島での安らぎなど健康で豊かな暮らしを享受できるよう都市と離島地域との共生・対流を促進し魅力ある地域づくりを目指す。

ア 水産業

水産業については、青く豊かな海の確保と魅力ある水産業の実現のために、漁業振興計画（平成12年5月愛知県策定）、漁港漁場整備長期計画（平成14年3月閣議決定）等に基づき、水産基盤の整備充実及び生産性の向上に向けた一層の取り組みを推進する。

漁場環境の悪化や漁業資源の減少が進んでいることから、覆砂、浚渫などの底質改善や魚礁・築いその設置などによる漁場の整備、稚魚などの放流により、漁場環境や生態系を保全・整備するとともに、資源と漁獲とのバランスを取りながら持続的な生産を行う資源管理型漁業の推進などにより、水産資源の増大と持続的有効利用を図り魅力ある水産業の実現を目指す。

また、漁港機能の整備・充実、経営及び流通の合理化、担い手の育成・確保を図るとともに、地域特産品の開発や高付加価値化の促進、及び水産物の「地産地消運動」推進等により水産業の活性化を図る。

篠島においては、シラス、イカナゴ漁が基幹漁業であるが、漁獲量、価格の変動が大きく、経営が不安定に陥りやすいことから、資源保護と過当競争抑止を図るため、愛知県の関係漁業者で自主組織する「しらす、いかなご船びき網連合会」において、今後も篠島漁協が出漁規制の調整等中心的な役割を果たすとともに、漁場の環境整備や栽培漁業の推進を通して水産業の安定と水産物の安定供給に努める。

日間賀島においては、小型機船底びき網を主体とする漁船漁業が中心であり、多様な鮮魚を本土側片名の水産物地方卸売市場へ水揚げしており、今後においても、漁業集落環境整備事業の推進や周辺海域の環境保全等に努め、「きれいな海でとれた日間賀のおいしい魚」としてブランド化を目指すとともに、水産物の安定供給と観光との一層の連携に努めることにより水産業の安定を図る。

佐久島においては、漁業後継者不足が深刻なことから、名人登録式の漁師マイスター制度の開設による定住促進と漁師希望者を対象とした体験教室の開催により担い手の育成を目指す。

イ 農業

3島合わせて28haもの畑がありながら、一部が家庭菜園として使われている程度で、多くは耕作放棄地となっていることから、1km²に満たない狭い島にあっては、耕作放棄地は貴重な資源であり、自然条件に適合する花卉などの栽培を研究し、観光の島として農地の有効活用を図る。

佐久島においては、お年寄りの野菜作りを支援するため、畑への水の確保とし

て雨水循環利用に必要な設備の設置を検討する。また、荒れた農地を「島を美しくつくる会」がスイセン畑にする運動から始まり、かつて島の畑一面を彩った蕎麦や綿も育てられ、原風景を映し出し、観光客に好評を得ており、今後は、収穫物や農業体験を観光に生かす取組みが期待される。

(4) 商工業等の産業の振興

これまで進められてきた水産物の加工や観光産業などの取組みに加えて、インターネットを活用した情報発信や販売網の構築等により、魅力ある就労の場を創出することで若者の島内就業を促進するとともに、豊かな自然や地域資源を活用して離島地域での起業を希望する人々の活動を支援するために、住宅、工房等の整備や産業の振興に不可欠な情報通信基盤の整備について検討をして行く。

製造業については、既存産業の高付加価値化や島の特産品としてのブランド化に向けた技術開発及び経営のための相談体制を整備する。

商業については、交流人口の拡大を図り、それを活力向上に結び付けるとともに、消費者のニーズに応える商品の開発や魅力ある店舗作りを支援する。

特に佐久島においては、多くの空き家が存在することから、これを定住における資源として捉え、「島を美しくつくる会」が主体となって空き家のリスト化、定住者向けガイドブックの作成、定住希望者情報ネットワークの構築、定住者交流の集いの開催、空き家の修復及び空き家を活用した定住体験施設の整備、定住による店舗出店希望者に対する各種相談や支援、企業のオフィスやアトリエとしての賃貸活用について検討する。

(5) 観光・レクリエーションの振興

離島が持つ優れた自然景観、文化遺産、伝統行事や豊かな水産物等は、観光レクリエーションの貴重な資源となっており、こうした豊富な資源を生かして、愛知県観光基本計画（平成9年3月策定）に基づき、観光の島づくりを進める。

近年、自然環境に対する意識が高まる中で、地域の豊かな自然を生かし人々にゆとりと潤いを提供する場としてエコツーリズム等体験型・滞在型の家庭向けの観光・レクリエーションの人气が高まっていることから、漁業体験や島の生活体験等のメニューの充実と受け入れ体制の整備を図り、都市地域の人々との交流の拡大によって地域の活性化を図る。

また、インターネットを利用した効果的な情報発信、ボランティア島ガイドの育成、観光案内所の充実、観光案内板の設置などにより、親切で分かりやすい観

光案内に努めるとともに、散策コースの整備、休息施設の設置、交通機関や道路及び施設のバリアフリー化に努め、人にやさしい観光環境の整備に努める。

篠島においては、「おんべ鯛とフグの島」、日間賀島においては、「フグとタコの島」という島のイメージを一層高めるとともに、新たなキャッチコピーの創作や料理も含めた島の特産品の開発に努める。また両島では、温泉開発の可能性や、海水、海草、海泥などを用いて行うタラソテラピーによる美容や健康増進の体験メニュー化についても検討を行う。さらに篠島においては、前浜海岸や島南部の景勝地を生かした観光開発などについて取り組むとともに、日間賀島においては、乗船場付近の緑化、観光施設用地の確保などについて取り組む。

佐久島においては、古い民家の黒壁の連続性が「三河湾の黒真珠」と称され、この黒壁景観を島の資源として位置づけ、島民主体の原風景保存計画づくりと黒壁再生運動により集落路地景観の修復を図り、良質な空間の維持に努める。

また、平成10年にオープンした文化交流施設「佐久島弁天サロン」を地域とアートのコラボレーションによる交流の場とし、イベントや展覧会等の定期的な開催と告知によりアートの島としてのイメージの確立を図るとともに、島に滞在して作品制作する芸術家を支援する風土づくりと作家との交流や制作体験の機会場の場づくりに努める。さらに、島民で構成する「島を美しくつくる会」の活動を主体に、島の生活の道具や古い農具などを島の文化資源として再利用する仕組みづくり、島でとれる魚介類を使った特産品の開発と旅館・民宿等での活用の仕組みづくり、島に自生する植物を使った土産品づくりや野道を散策できる花ごよみマップの作成、貝紫染教室の開催と貝紫染グッズの開発、網つくりなどの漁業体験プログラム及び古代塩作りなど生活体験プログラムの開発、島にある食材を使った名物料理の開発と調理技術及びもてなしの向上、宿泊施設の改修などに努めるとともに、観光事業者等との交流を図るなどPRに努める。

(6) 生活環境の整備

豊かな自然環境を健全な状態で次世代に継承するとともに、快適性の向上及び環境負荷の少ない循環型社会を目指した地域づくりを進める。

廃棄物の処理については、愛知県廃棄物処理計画(平成14年9月策定)に沿って、適正処理の推進と減量化・資源化の促進を図り、環境負荷の少ない安全で快適な地域環境づくりを目指す。

3島とも、可燃ごみ、資源ごみは、本土へ搬出処理しており財政負担が多であることから、生ごみについては、家庭用コンポストやぼかし等の普及促進を図

り、島内での堆肥化処理量を増やすことにより島外搬送費の削減を図る。また、資源ごみについては、分別収集の割合を高めることにより、島内埋立処分場の延命に努める。

島民のごみ・環境問題に対する意識の高揚と一層の島内美化機運の醸成を図り、資源ごみリサイクルの推進、石鹸・洗剤等のエコ商品使用、ビーチ・クリーンアップキャンペーンによる海浜清掃など環境に配慮した取り組みを関係機関や各種団体の協力の下に行い、周辺海域の環境保全と美しい島づくりを推進する。

なお、佐久島においては、老年人口（65歳以上）の割合が極めて高く、ごみ収集場所への搬出が困難な住民も多いことから、超高齢化した島における生活上の諸問題への対策について検討する。

上水道は、平成13年に愛知三島水道企業団による運営から南知多町水道事業に一元化され経営の合理化を図ったところであるが、今後水道料金についても本土側との同一料金体系に向けて対応するとともに、送水ポンプ等の配水施設や老朽管について計画的に改修を行い安定供給に努めて行く。

下水については、生活排水の海域への流れ込み対策として漁業集落排水処理施設や合併処理浄化槽の整備・普及を推進し、海域への汚水流入低減を図るとともに、三河湾にそそぐ河川流域市町村住民との交流促進の下に、流域住民や民間団体等との幅広い環境保全に対する共通認識と水質浄化対策に係る広域的な取り組みを促進し、干潟、藻場の保全に努め、漁場環境の改善と生態系の保全を図り青く豊かな海の確保に努める。

日間賀島においては、漁業集落環境整備事業を推進し早期供用開始に努め、篠島、佐久島においては、集合処理施設や合併処理浄化槽の設置促進に努める。

(7) 保健医療の確保

保健医療の確保について、健康増進から疾病予防、リハビリ、在宅ケアに至る一貫した保健医療サービスが、いつでも、どこでも、誰もが適切に受けられる包括的な保健医療提供体制の確立を目指した「愛知県地域保健医療計画」(平成13年3月策定)に基づき、広域的な観点に配慮しつつ、保健医療供給体制の整備・充実を図るとともに、保健予防対策を推進し、健康で生きがいのある地域社会の実現を目指す。

医師、看護師、保健師、その他の医療従事者の確保及び無歯科医地区の歯科医療確保、へき地診療所の設備整備や運営の充実に努めるとともに、情報通信技術を活用した遠隔医療・遠隔診断など新しい医療技術の応用について高度情報通信基盤の整備を含め検討を進める。

また、島民の要望が強い急患の患者対策について、本土への搬送が必要な救急患者に対する 24 時間の救急体制の確保に努め、重症の救急患者は、愛知医科大学付属病院が実施するドクターヘリを利用し高度医療機関へ搬送する体制を取ることであり、島民や観光客の安心へのニーズに応える。

さらに、島民に対する健康教育、健康増進、疾病予防など保健予防対策を推進し、生涯を通じた健康の保持・増進に努める。

篠島、日間賀島においては、車両の通行できない狭い路地が多いことから、急患発生時の迅速な搬送を確保するため、島内における救急患者搬送協力員制度について検討を進める。

(8) 高齢者等の福祉の増進

保健福祉サービスの目標量及び提供体制を明らかにした「21 世紀あいち福祉ビジョン（平成 13 年 3 月策定（平成 15 年 3 月実施計画見直し）」）に基づき、高齢者保健福祉施策の総合的な推進及び介護保険制度の円滑な実施を図る。

高齢者が地域活動や生産活動、創作活動、伝承活動などを通じて社会とのつながりを持ち、生きがいを持って積極的に生きて行けるような生活環境の整備に努めるとともに、寝たきりや要介護状態にならないために、健康教育、健康相談のほか食生活、運動など生活習慣の改善指導に努める。また、健康で自立した生活を送ることができるよう、ひとり暮らしなどの高齢者に対する生活支援の充実に努める。

育児においては、乳児保育、延長保育など保育所の保育・質の向上に努めるとともに、老朽化した日間賀島保育所の修築を図る。また、将来の島を担うべき子どもが心身ともに健やかに育つことができる環境整備を推進するとともに、育児・家事等への男性の参画を促進するなど、男女共同参画社会の構築に努める。

(9) 教育及び文化の振興

ア 学校教育

豊かな自然環境の中で、調和のとれた人間を育成していくことを目指し、児童・生徒一人一人が能力を十分発揮し、かつ、充実した意義ある学校生活を送ることができるよう、学校施設の整備、優れた教職員の確保、学校給食の充実等を図るとともに、インターネットを用いた調べ学習や遠隔授業を導入することなどにより、学校教育環境の向上に努める。

また、学校と家庭・地域社会が連携し、子どもたちの社会性の育成と豊かな人間性を育む教育に努めるとともに、子どもたち自身が自分で課題を見つけ自ら学

び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する能力、生涯学習の基礎的な力である「生きる力」を島の豊かな自然の中で育成していく。

なかでも佐久島では、小規模特認校指定により校区拡大を図り、町内から島の自然の中で学びたいと希望する児童・生徒を受け入れ、自然と共生した島の暮らしの楽しさと行き届いた少人数教育の中で子供を育てて行く。また、そのための受け入れ体制を整える。

高等学校は、県立内海高等学校の日間賀島校舎が平成12年度末に閉校し、篠島校舎も平成15年度末をもって閉校となる予定であり、南知多町は、本土側高等学校への通学者の負担を軽減するため、引続き交通費助成を実施していくこととしている。なお、閉校後の篠島校舎については、残された価値の積極的な活用を図るため、今後、地域住民の意見を求めながら検討を進めていく。

イ 社会教育

物質的な豊かさの追求から精神的な豊かさを求める志向が高まる中で、豊かな人生を送るために学習を行うことを望む人々が増加することが見込まれる。

社会教育施設及び生涯学習施設の整備・充実を図るとともに、指導者の育成、学習方法の開発、設備の充実などに努め、年齢や学習意欲に応じた多様な学習機会を提供する。

ウ 文化の振興

各島に残る文化遺産、伝統行事、民俗芸能などの保護・保存と振興・活用を図ることに加え、文化情報を整備し積極的に情報発信することにより、個性ある文化を生かした魅力的な地域づくりを地域住民の連携により進め、他の地域との交流や世代間の交流を促進し地域の活性化を図る。

(10) 他の地域との交流の促進

島の豊かな自然・歴史・文化とのふれあいや学習の場として多様な活動のできる環境づくりを進め、交流人口の拡大により地域の活性化を図る。

優れた自然条件と地域資源を生かしてこれまで取り組んできた体験学習等について、一層の内容充実と受け入れ態勢の整備を図り、他地域住民との交流を促進し、魅力ある開かれた地域の構築に努め、もって住民の地域への誇りや愛着の醸成を図るとともに、他地域の住民にも明るく楽しい時間を過ごすことのできる地域として整備する。都市部住民の中には自然豊かな島での生活に関心を示す人が増えつつあることから、都市部に対し積極的に情報発信を行い、都市住民との交流やU・Iターンを積極的に推進する。また、定住者に対し、島の慣習にとらわれることなく、

柔軟な受け入れ体制を整えるなど開かれた地域として整備していく必要がある。

篠島、日間賀島においては、姉妹町村や友好交流町村との宿泊助成制度を継続するとともに、学校間のふれあい交流のほか、個人、グループ、団体などの多様な交流が活発に展開されるよう交流の環境整備に努める。

佐久島においては、里山と日本人の暮らしとの調和の取れた関わりが残されており、これを体験できる施設整備のほか、民間主導によるヨット・カヌーの総合教育訓練施設の整備やプレジャーボート所有者に対するマナー向上教室の開催、大学による芸術制作展やゼミの開催などについて働きかけを行い、交流人口の拡大を図る。

(11) 消防・防災、国土保全

生活の基本である暮らしの安心・安全の確保を図るため、防災意識の高揚及び消防・防災機能の強化充実を図るとともに、海岸侵食、土砂崩れなど危険箇所に対し海岸保全施設の整備や治山・がけ崩れ対策の実施等により国土保全の推進に努める。

島の各集落は、人家が密集しており、火災や地震などの災害発生時の被害を最小限に食い止めるため、建築物の不燃化・耐震化の促進、密集居住地の再整備、消防体制の強化を進めるとともに、高齢者等の災害弱者対策、自主防災組織の育成強化等に努める。

愛知三島は、東海地震の強化指定地域に含まれていることから、東海地震の発生に備え、「県地域防災計画」(平成 14 年 10 月修正)、「あいち地震対策アクションプラン」(平成 14 年 11 月策定)及び各町の「地域防災計画(地震防災強化計画を含む)」に基づき、防災協働社会の形成と地域の防災リーダー養成など防災意識の向上・対策に努め、情報収集・管理・提供システムの整備及び広域応援体制や受け入れ体制の整備などの必要な対策を講じるとともに、高齢者等の災害弱者や観光客の安全な避難場所への誘導も含めた地震・防災訓練を定期的実施する。

(12) 島民発意の島づくりと離島地域の連携

各島とも島民による島づくりの意識が育まれ、種々な取り組みが行われている。今後は、芽生えた島づくりの活動をより多くの島民の参加を得て更に大きく育て、大きな成果を上げることにつなげて行く必要がある。島の将来は行政任せとせず、島民自らが島の将来について真剣に考えることが大切であり、これまで以上に島民が主体的に参加し、島民の発意による振興計画づくりと島民自らによる施策の推進において積極的に役割分担を担うことが求められている。島民が中心となって考え島民が主体となって行う島づくりを目指す。そうした島づくりの熱意が行政を動か

し、また、その輝きが都市地域等から多くの人を島に引き付ける魅力となる。

愛知三島は、三河湾上2～3 kmに近接し、太古から同じ海で漁をしてきた隣人であり、海難事故での救助活動、火災における消防協力体制、近年では水道事業によって結ばれ、生活の一部において3島間の協力体制が構築されている。

今後、各島の自立的発展を目指す上において、3島の一層の協力体制づくりが求められる。3島は漁業と観光が基幹産業であることから、3島が連携して漁業と観光の振興に取り組むことが有効である。海を共有する観点から「青く豊かな海の確保」を共通の目標とし、その実現を図るため、環境にやさしい天然石鹸の普及や3島海浜一斉清掃デーの設定による活動などを通じて島民の環境保全意識の高揚を図る取り組み、また、共通の漁場を守るための磯づくりや稚魚の中間育成・放流などを3島が連携して取り組むことを通して、3島が協力して島づくりに取り組む意識を醸成し、更には、各島のイベント、文化フォーラム等への島民相互の交流や各島の地域づくりを学ぶ機会に発展させていくことにより、愛知三島の協力体制の充実を図ることが望まれる。

また、かつて三河湾には、愛知三島周遊や三河湾のリゾート地域間を結ぶ海上交通ネットワークがあったが、利用客の減少等により、航路の休止などネットワーク機能が衰退・消失しつつある。広域的な海上交通基盤は観光振興を図る上で大きな影響力を持つものであり、航路事業者等との調整に努めるとともに、発達の見られる海上タクシーを利用した島めぐりパッキングツアーなど新しい観光メニューの開発や3島の観光情報の一元化などについて、3島が連携して観光ネットワークづくりに取り組むことが求められる。

(13) その他離島の振興に関し必要な事項

ア 市町村合併との調整

愛知三島は、現状においては一部離島であり、各島とも一自治体の中での人口割合は少数となるため、今後、市町村合併の議論が進む中では、島民が意見を主張できるよう環境整備に努めるとともに、合併により離島における行政サービス等に支障が生じないように十分配慮することが必要である。

イ 自然公園法や農地法等における配慮

篠島、日間賀島両島では28haもの畑がありながら、農業経営が成り立たないために一部が家庭菜園として使われている程度で、多くは耕作放棄地となっている。今後、島づくりを推進する上で、土地の少ない狭い島においては、この耕作放棄地は貴重な資源であり、有効に活用することができるかどうか島の活性

化に大きく影響を及ぼすこととなる。島が自立促進していく上で、農地転用や山林の活用が必要となった場合は、自然公園法、農地法等の各種関係法令の運用に当たって、事業の円滑な実施が図られるよう配慮を国に要請するとともに、県においてもその運用に当たっては適切な配慮に努める。